

平成25年11月29日

宜野湾市長

佐 喜 真 淳 様

NPO法人

普天間門前まちづくり期成会
理事長 柏田吉美

県道81号宜野湾北中城線一部街路樹変更について（お願い）

宜野湾市の中心市街地である普天間地域は戦前、由緒ある普天満宮、普天満山神宮寺の門前町として繁栄して参りましたが、戦後は商業、官公、サービス業及び住居等の都市機能が集積し、中部地区の「まちの顔」として役割を果たしてまいりました。

しかしながら、普天間地域周辺市街地に於いては近年、空き店舗が増え、かつての賑わいはなくなりました。

私達は地域に関わる住民自身がまちづくりの担い手として、このまちの文化、歴史、伝統を踏まえ、活気ある個性の演出と魅力あるまちとする為に、行政、議会への提案、提言すると共に様々なまちづくりに関する事業を実施し、地域に貢献する目的でNPO法人普天間門前まちづくり期成会を設立しました。

私達は、地域のまちづくりと人間らしい豊かな社会づくりを次世代に引き継いで参りたいと考えていますのでご理解をして頂き、下記の件よろしくお願い申し上げます。

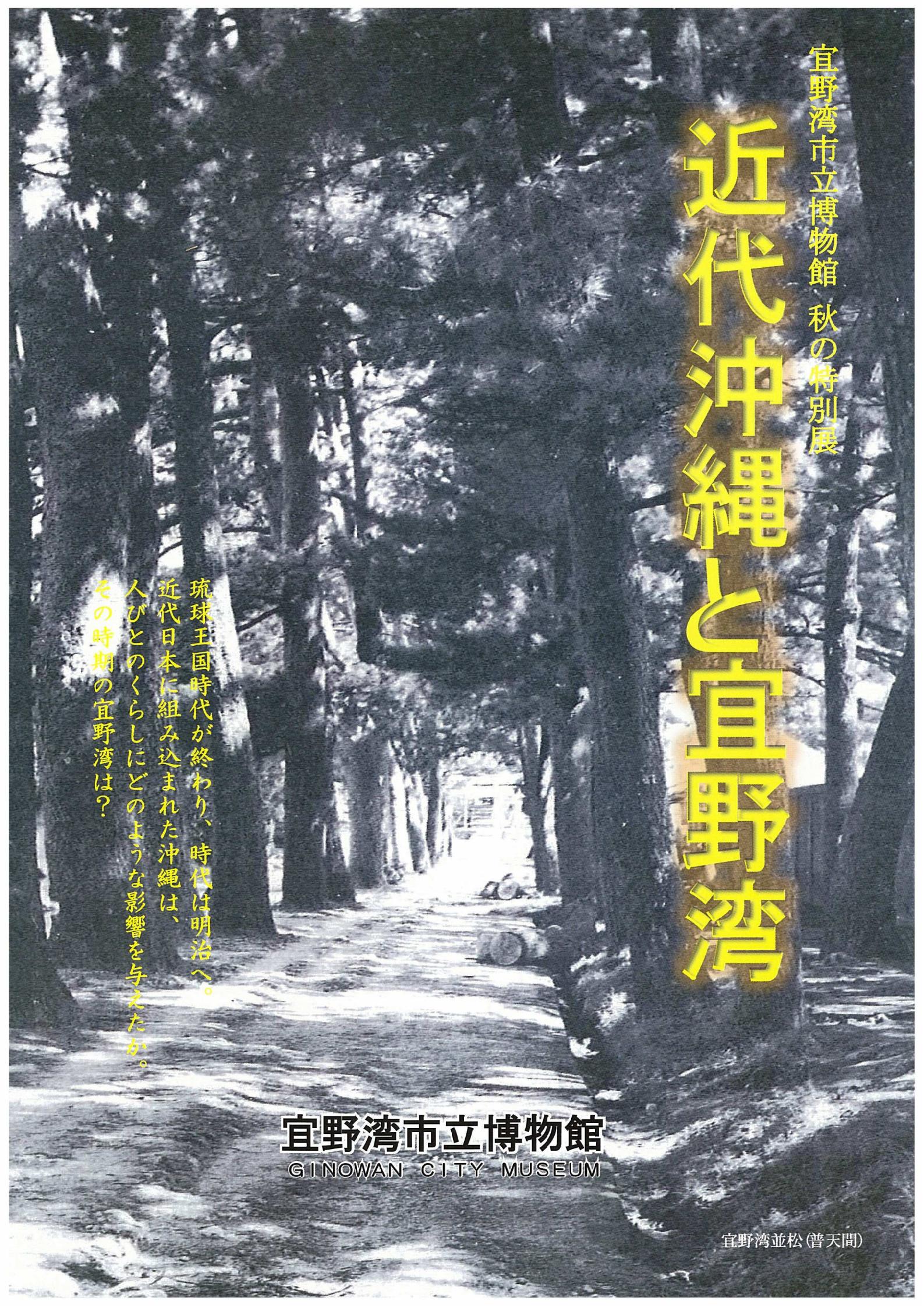
記

1. 県道81号宜野湾北中城線には街路樹として「クワディーサー」が植栽されていますが、以前は並松通りがあり門前町としていやしの通りになっていましたので、「琉球松」を植栽して頂きたい。

植栽場所については、普天間三差路より伊佐交差点まで。

2. 普天間バス停の中に蛍光灯を設置して頂きたいと地域からの要望があり、防犯上、並びにまちづくりの一環としてご理解をお願い申し上げます。

以上



宜野湾市立博物館 秋の特別展

近代沖縄と宜野湾

宜野湾市立博物館
GINOWAN CITY MUSEUM

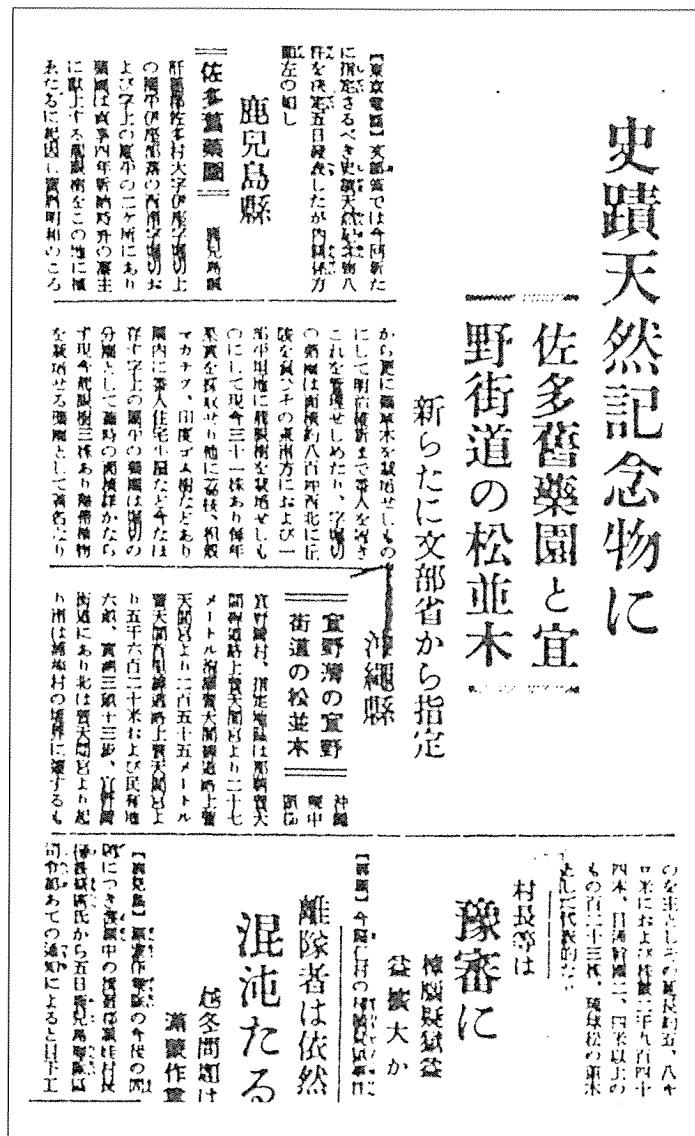
琉球王国時代が終わり、時代は明治へ。
近代日本に組み込まれた沖縄は、
人びとの暮らしにどのような影響を与えたか。
その時期の宜野湾は？

宜野湾並松(普天間)

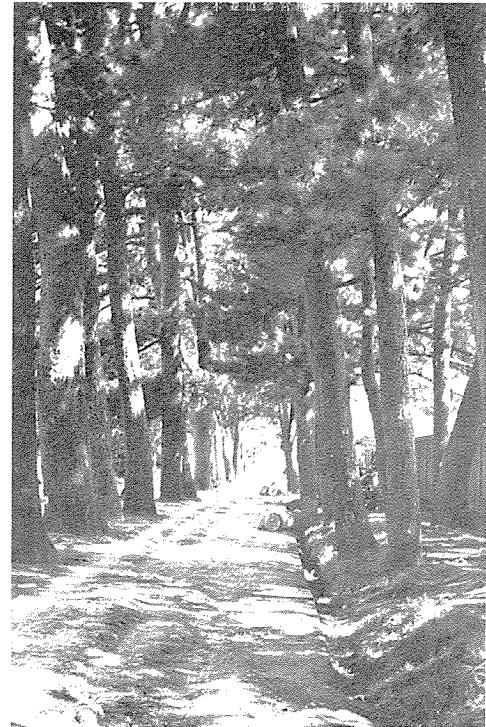
■ 宜野湾並松の国指定天然記念物

琉球王国時代に植付けられた宜野湾並木が 1932(昭和7)年に「宜野湾街道ノ松並木」として国の「天然記念物」に指定されました。同年10月7日付の『大阪朝日新聞』には、「史蹟天然記念物に佐多旧薬園と宜野湾街道の松並木 新らたに文部省から指定」との見出しが掲載されました。この記事には行程全長 5.8 km および、株数 2,944 本、目通幹囲 2.4m 以上の松が 123 株あると記されています。

天然記念物の指定に先駆け大正時代に史蹟名勝天然紀念物調査会考査員の中野治房による調査が行われ、『史蹟紀念物調査報告第 21 号 天然紀念物調査報告沖縄県二於ケル植物ニ関スルモノ』(1920) がまとめられました。この報告書によると、沖縄本島内で並木に秀でている場所の一つに普天間神宮寺前から首里区に至るまでの松並木があげられています。特に普天間から宇宣野湾までの約 1 里間の並松の発達が最も優れていると報告されています。



「宜野湾街道の松並木」の天然記念物指定を報じた『大阪朝日新聞』(1932年10月7日付)



宜野湾並松(普天間)

【並松と人びとの生活】

並松は高く鬱蒼��蒼と生い茂り、日中、太陽が照りつけても木の下は日陰で歩きやすかったそうです。夏場は特に並松沿いの嘉数・宜野湾・新城・普天間の集落から宜野湾や普天間の学校に通う子ども達にとって、通学路の並松街道は涼しく快適な通りでした。

台風が襲来すると時折、松の木や枝が折れることもありました。その倒木処理について役場に申し出ると、役場から処理する木こり職人が派遣されました。字宜野湾の三良桃原小（屋号）の男性が、倒れ掛かった松とそうでない松とを縄で縛って補強しました。また、松の幹に縄を通して縄を巧みに操って木によじ登って枝を切り落としました。倒木は製材して臼の材料となりました。

この他、並松は天然記念物ということもあり、勝手な伐り倒しは禁じられていましたが、並松に面する集落の人びとにとっては生活の一部でした。松の落ち葉を薪として利用し、旧盆のウンケー（お迎え）の際に、松脂が豊富な根元部分を少し削ってウンケーピー（お迎え火）のトゥブシ（松明）として使う地域もありました。